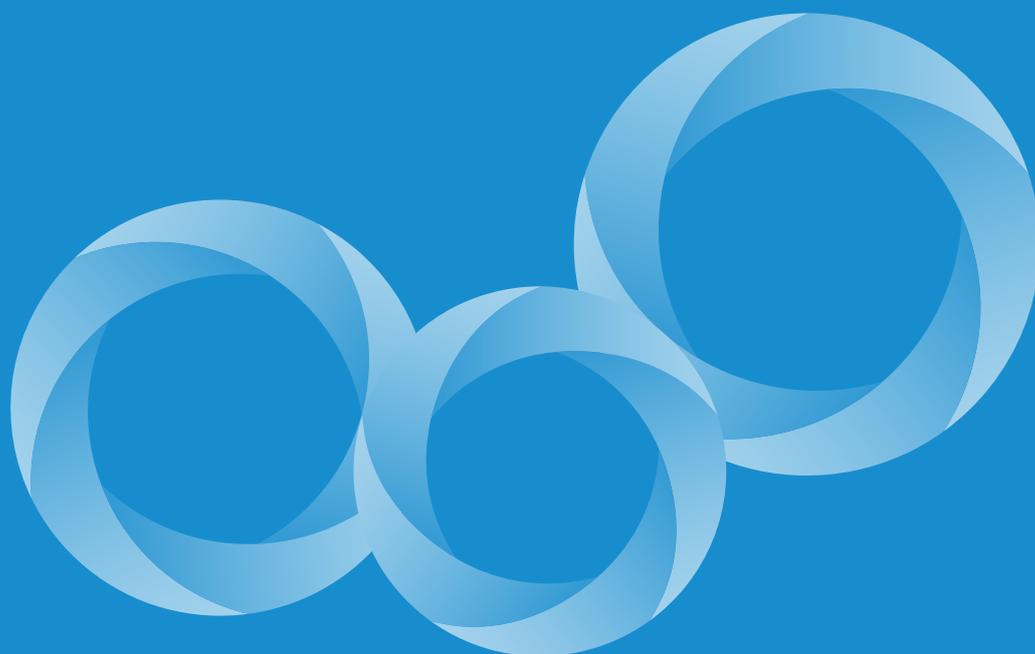


第58回 三重県透析研究会学術集会

プログラム



会期

令和4年 2月20日(日)

会場

Web開催

当番幹事

米村 重則

松阪市民病院 泌尿器科科長

第58回

三重県透析研究会学術集会

プログラム

会期 令和4年 2月20日(日)

会場 Web開催

当番幹事 米村 重則
松阪市民病院 泌尿器科科長

ご 挨拶

第58回三重県透析研究会学術集会 当番幹事

松阪市民病院 泌尿器科

科長 米村 重則

このたび2022年2月20日(日)にWEBにて開催される第58回三重県透析研究会学術集会の当番幹事を拝命いたしました松阪市民病院の米村重則です。

2020年に端を発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で第57回は紙面上となり、2021年に予定していた第58回は1年延期とさせて頂き学会開催方法を模索しておりました。今回、確実に開催する方法として議論の末にZOOMを用いて開催する運びとなりました。従来までの対面での学会からZOOMを使用しての変化にもかかわらず沢山の演題の応募を頂きまして誠に感謝しております。

今回、特別講演には東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター 上廣死生学・応用倫理講座 特任教授の会田薫子先生に「エンドオブライフ・ケア — 透析療法の見合わせと終了」をご講演頂くことになりました。会田先生は臨床倫理学・臨床死生学がご専門で、終末期医療において多方面にご活躍されております。透析療法に携わる医療従事者において、透析患者様の終末期治療を避けて通ることができませんので、会田先生の講演が今後の診療に役立つものと信じております。また今回のご講演は私自身も非常に楽しみにしております。

特別講演に加え従来のランチョンセミナーのかわりに共催セミナーとして4講演を企画させて頂きましたので是非ともご拝聴くださいますようお願い申し上げます。

今回の研究会は初めてのWeb形式という新様式にもかかわらず特別講演・共催セミナー・一般演題の演者・座長をご快諾いただいた先生方、ならびに一般演題に応募いただいた先生方に心より感謝申し上げます。今回のZOOM運営において三重県臨床工学会技士会のご協力がなければ開催できなかったと思われ三重県透析研究会より深謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響はしばらく続くものと思われ、コロナ禍が過ぎ安全が確保できる状況となりましたら、従来通りの開催が可能な日が確実に来ると思われます。本学術集会が会員の皆様にとって実りある有意義な会となりますようお願いしつつ、会員の皆様には御指導・御支援賜わりますようお願い申し上げます。

令和4年2月20日

ご 案 内

〈座長の先生へのお願い〉

- (1) ご担当セッションの30分前までに配信会場 座長受付までお越しください。
- (2) 受付にて評価シートを受け取り、担当セッションの評価をお願いします。
セッション終了後は評価シートを受付までお持ちください。
- (3) ご担当いただくセッション開始予定10分前までに、次座長席周辺にご着席ください。
- (4) 時間になりましたら、セッションの開始をお願いいたします。
- (5) 限られた時間内で発表が円滑に進むよう、ご配慮くださいますようお願いいたします。

〈発表者へのお願い〉

(1) 発表時間

発表時間と発表会場を確認し、ご自身の発表の5分前には Zoom のミーテングルームに入室してください。

1演題9分(発表6分、討論3分)です。

(2) 注意事項

発表は Zoom 上で行います。各自、安定した通信環境の確保をお願いいたします。

〈質問・討議される方へのお願い〉

ご所属、ご氏名を告げてから質問・討論を始めてください。

〈学会認定等のポイントについて〉

本学術集会への参加により、以下の単位が取得できます。

- (1) 一般社団法人日本透析医学会 専門医制度委員会が認める地方学術集会 (5単位)
今回、Web 開催のため当学術集会の参加証で5単位の取得が可能です。
例年の透析医学会指定の参加証は配布いたしませんので、ご注意ください。
- (2) 日本腎不全看護学会 慢性腎臓病療養指導看護師 (CKDLN) (6ポイント)

参加証は大切にご自身でお手元に保管してください。

尚、参加証の再発行は致しませんので、あらかじめご了承下さい。

日 程 表

	Zoom 第1会場	Zoom 第2会場
9:00	9:00～ 開 会 式	
9:10～10:10	9:10～10:10 一般演題 1 COVID-19部門 6 演題 座長：大西 孝宏(伊勢赤十字病院)	9:10～10:10 一般演題 2 臨床工学部門 6 演題 座長：堀 剛大(小山田記念温泉病院)
10:20～11:10	10:20～11:10 一般演題 3 看護部門 5 演題 座長：中瀬 千幸(津みなみクリニック)	10:20～11:20 一般演題 4 リハビリ部門 6 演題 座長：植木 直子(鈴鹿回生病院)
11:30～12:20	11:30～12:20 共催セミナー 1 看護師による腎代替療法選択支援の実際 座長：加納 智美(桑名市総合医療センター) 演者：今井 早良(日本赤十字社医療センター) 共催：テルモ株式会社	11:30～12:20 共催セミナー 2 慢性腎臓病と便秘 座長：片山 鑑(三重大学医学部附属病院) 演者：伊藤 康文(松波総合病院) 共催：持田製薬株式会社
12:30～13:30	12:30～13:30 特別講演 エンドオブライフ・ケア —透析療法の見合わせと終了— 座長：米村 重則(松阪市民病院泌尿器科) 演者：会田 薫子(東京大学大学院 人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣死生学・応用倫理講座 特任教授)	
13:40～14:40	13:40～14:40 一般演題 5 バスキュラーアクセス部門 6 演題 座長：小崎 勇司(岡波総合病院)	13:40～14:40 一般演題 6 医師部門 6 演題 座長：小藪 助成(尾鷲総合病院)
14:50～15:40	14:50～15:40 共催セミナー 3 近年の透析患者背景に即した テラーメイドHDF療法の考察 座長：尾間 勇志(特定医療法人暁純会 武内病院) 演者：人見 泰正(桃仁会病院) 共催：旭化成メディカル株式会社・ 株式会社ジェイ・エム・エス	14:50～15:40 共催セミナー 4 保存期・透析期における腎性貧血の診断と治療 座長：町田 博文(特定医療法人暁純会 武内病院) 演者：脇野 修(徳島大学) 共催：田辺三菱製薬株式会社
15:50～16:00	15:50～16:00 閉 会 式	

プログラム

第1会場 (Zoom)

9:00～9:10 **開会式** 当番幹事 米村 重則 (松阪市民病院 泌尿器科 科長)

9:10～10:10 **一般演題1 COVID-19部門**

座長：大西 孝宏 先生 (伊勢赤十字病院 腎臓内科部長・血液浄化センター長)

1-1 病棟における COVID-19陽性透析患者への対応

○伊藤 史朋 (CE)¹⁾、塚原 蓮々¹⁾、佐藤 勝紀¹⁾、佐々木 太一¹⁾、清水 可奈¹⁾、尾間 勇志¹⁾、伊藤 尚子²⁾、藤本 美香²⁾、清原 実千代²⁾、町田 博文²⁾、武内 操²⁾、武内 秀之²⁾

1) 特定医療法人暁純会 武内病院 臨床工学部、2) 同 内科

1-2 COVID-19クラスター発生後の腎センターの対応と成果

～濃厚接触者の隔離透析を経験して～

○柏木 加純 (Ns)、別所 美玖、内藤 彩、奥村 美香、不破 泰子、佐々木 太一

特定医療法人暁純会 武内病院 看護部

1-3 透析室における新型コロナウイルス感染対策のマニュアル作成

～ゾーニングについて考える～

○戸塚 絵美 (Ns)、重岡 美奈子、吉川 とも子、水谷 益美

医療法人社団主体会 主体会病院

1-4 コロナ禍における当院の感染対策

○九折 ゆかり (Ns)、村田 幸恵、山際 佳代、井口 史美、小泉 奈保美、後藤 浩也

特定医療法人同心会 遠山病院

1-5 当院における新型コロナ感染症 (COVID-19) 対策

○藤川 兼一 (CE)、柳田 圭祐、三浦 靖明、浅井 淳、竹内 美由起、川波 かおり、山下 智史、原田 利化、三浦 隆史、出岡 悦子、山本 和昇、中田 敦博、伊藤 英明子、岩島 重二郎、河出 恭雅、河出 芳助

医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

1-6 コロナパンデミック 当院での COVID-19陽性透析患者の透析方法について

○多胡 郁哉 (CE)¹⁾、澤見 真由¹⁾、三林 真也¹⁾、渡辺 俊文¹⁾、加納 智美²⁾、安富 眞史³⁾

1) 桑名市総合医療センター 臨床工学部、2) 同 看護部、3) 同 腎臓内科

3-1 当院での抜針事故とその対策

～認知症患者の自己抜針例と精神的に不安定な患者の自然抜針例～

- 相原 瑞絵(Ns)、赤井 敏江、大橋 真理、飯田 友仁子、安藤 友紀、今泉 真由香、
前田 真奈、中村 永子、伊藤 真奈美、竹重 信
医療法人徳心会 四日市セントラルクリニック

3-2 当院のインシデントレポート提出に対する意識調査からの一考

- 小久保 恵奈(Ns)、坂口 幸伸、東 綾香、中瀬 千幸、坂田 久美子、伊與田 美矢子、
伊與田 義信
医療法人勢風会 津みなみクリニック

3-3 透析日誌の効果的な活用について当院の改善報告

- 村田 鮎美(Ns)
医療法人友和会 竹沢内科歯科医院

3-4 ATP 測定器を用いたシャント肢洗浄の実施率向上に向けた取り組み

- 山下 達矢(Ns)¹⁾、駒田 さゆり¹⁾、齋藤 真紀¹⁾、原田 久子¹⁾、安田 芳樹²⁾、名和 俊平³⁾、
三宅 真人³⁾
1) 独立行政法人地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター 看護部、2) 同 臨床工学部、3) 同 腎透析科

3-5 透析スタッフのシャントスキンケアに対する意識向上を目指して

- 杉下 真由美(Ns)¹⁾、兼安 美貴子¹⁾、松場 幸江¹⁾、久保 あずさ¹⁾、田中 美紗子¹⁾、
大杉 和生²⁾、小藪 助成²⁾
1) 尾鷲総合病院 透析センター、2) 同 内科

3-6 演題取り下げ

看護師による腎代替療法選択支援の実際

今井 早良 先生 日本赤十字社医療センター 血液浄化センター

エンドオブライフ・ケア —透析療法の見合わせと終了

会田 薫子 先生 東京大学大学院 人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター
上廣死生学・応用倫理講座 特任教授

13:40～14:40 一般演題5 バスキュラーアクセス部門

座長：小崎 勇司 先生(岡波総合病院 CE 部 主任)

5-1 VAトラブルの経験

○西山 誠(CE)、原澤 博文、原澤 桃子、柴田 守、田中 章規、納所 真里、笠井 優樹
医療法人さくら会 さくらクリニック松阪

5-2 閉塞シャントに対して吻合部近傍へのエコー下穿刺により透析を実施した一例

○三上 昌志(CE)、新家 加奈子、坂本 悠、小川 明日香、堤 陽平、毛受 裕貴、坂口 幸伸、
坂田 久美子、伊與田 義信
医療法人勢風会 津みなみクリニック

5-3 VAI/T 施行患者における短期再狭窄に影響する要因の検討 —第2報—

○日比 雅人(CE)、山中 伸吾、柴田 洋、板垣 正幸、三宅 智紀、波田 光司、笹井 直樹
特定医療法人同心会 遠山病院

5-4 VAI/T を主とした当院手術室業務の経験

○田中 章規(CE)、山中 皓介、納所 真里、西山 誠、柴田 守、原澤 桃子、原澤 博文
医療法人さくら会 さくらクリニック松阪

5-5 バスキュラーアクセスに対する超音波画像診断を 生理検査室から透析室スタッフへタスクシフトした経緯

○宮坂 佳裕(CE)¹⁾、小嶋 岳人¹⁾、田中 奈央子²⁾、木村 みほ²⁾、水野 美香²⁾、佐藤 将司¹⁾、
戸登 昭良¹⁾、広瀬 悟郎¹⁾、加藤 佳史¹⁾、奥田 祐希¹⁾、山口 翔¹⁾、奥田 将¹⁾
1) 医療法人 永井病院 臨床工学室、2) 同 透析室

5-6 VA エコーチームを発足させて

○長谷部 佑二(CE)、川野 遼平、小倉 脩平、柳田 圭祐、加藤 裕介、藤川 兼一、
田辺 さくら、窪田 英里子、竹田 健吾、鬼頭 佳史、山下 智史、三浦 隆史、山本 和昇、
中田 敦博、伊藤 英明子、岩島 重二郎、河出 恭雅、河出 芳助
医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

14:50～15:40 **共催セミナー3**

共催：旭化成メディカル株式会社・株式会社ジェイ・エム・エス

座長：尾間 勇志 先生（特定医療法人暁純会 武内病院 人工腎センター 透析部長）

近年の透析患者背景に即したテーラーメイドHDF療法の考察

人見 泰正 先生 桃仁会病院 臨床工学部 部長

15:50～16:00 **閉会式**

2-1 加圧式 VA マッサージ (PVM) の有用性の検討

○川添 文音 (CE)¹⁾、大原 さなえ¹⁾、西村 直樹¹⁾、安田 芳樹¹⁾、安江 一修¹⁾、名和 俊平²⁾、三宅 真人²⁾

1) 四日市羽津医療センター 臨床工学部、2) 同 腎透析科

2-2 ABH-15LA の使用経験

○西口 隆史 (CE)、中根 義仁、竹原 まい、森 未奈、有村 祐香、岩田 悠一、河島 順子、高橋 志保子、古賀 希、伊藤 美香、松岡 恵理、中澤 亜希子、玉田 香介

医療法人医秀会 玉田クリニック

2-3 透析患者における DXA 法と BIA 法による体組成の比較検討

○山田 大 (CE)、谷田 精久、綿井 幸司、松本 大介、山本 真一、澤野 愛弓、渡邊 引毅、亀田 陽一

医療法人泉澄会 亀田クリニック

2-4 レオカーナの使用経験

○黒宮 俊 (CE)、前野 文哉、山川 誠人、小津 陸斗、佐久間 あかね、塚原 蓮々、堀本 夏未、岡村 有起、片岡 祐也、伊藤 史朋、佐藤 勝紀、柴田 翔子、森 亨子、佐々木 太一、清水 可奈、澁谷 和俊、尾間 勇志

特定医療法人暁純会 武内病院 臨床工学部

2-5 重症虚血肢の対するレオカーナの使用経験

○加納 智美 (Ns)¹⁾、恒松 千晶¹⁾、杉山 あづさ¹⁾、三林 真也²⁾、渡辺 俊文²⁾、西田 順二³⁾、三浦 翔子³⁾、横井 友和³⁾、安富 真史³⁾

1) 地方独立行政法人 桑名市総合医療センター 血液浄化療法部、2) 同 臨床工学室、3) 同 腎臓内科

2-6 シャントエコー 2機種の使用についての検討

○坂本 悠 (CE)、三上 昌志、坂田 久美子、小川 明日香、堤 陽平、毛受 裕貴、坂口 幸伸、伊與田 義信

医療法人勢風会 津みなみクリニック

4-1 無床外来維持透析クリニックにおける透析導入の経験と現状

○神田 翔(CE)¹⁾、藤田 良樹¹⁾、近藤 壮史¹⁾、吉見 美穂子¹⁾、小林 薫¹⁾、中田 敦博²⁾、伊藤 英明子²⁾、伊藤 豊¹⁾、岩島 重二郎²⁾、河出 恭雅²⁾、河出 芳助²⁾

1) 医療法人如水会 四日市腎クリニック、2) 医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

4-2 当院における統計学的検討

○柳田 圭祐(CE)、中田 敦博、川野 遼平、山本 和昇、伊藤 英明子、岩島 重二郎、河出 恭雅、河出 芳助

医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

4-3 ABI 正常域低値透析患者の下肢筋力低下について

○瀬古 征志(PT)¹⁾、平野 裕三¹⁾、水谷 智恵美¹⁾、伊藤 卓也¹⁾、川村 直人²⁾

1) 主体会病院 総合リハビリテーションセンター、2) 同 内科

4-4 透析患者の転倒を予測する Short-Physical Performance Battery (SPPB) のカットオフ値

○今岡 泰憲(OT)¹⁾、岡田 直隆¹⁾、山本 桃子¹⁾、山本 大貴¹⁾、松本 翔太¹⁾、山口 みさき¹⁾、岩田 悠輝¹⁾、米村 重則²⁾

1) 松阪市民病院 リハビリテーション室、2) 同 泌尿器科

4-5 心疾患合併高齢者に対する独歩再開を目指した取り組みと現実

○笠井 優樹(CE)、原澤 博文、原澤 桃子、柴田 守、西山 誠、田中 章規、納所 真里

医療法人さくら会 さくらクリニック松阪

4-6 当院における在宅血液透析導入指導について

○柴田 翔子(CE)¹⁾²⁾、前野 文哉¹⁾、山川 誠人¹⁾、小津 陸斗¹⁾、佐久間 あかね¹⁾、塚原 蓮々¹⁾、堀本 夏未¹⁾、黒宮 俊¹⁾、岡村 有起¹⁾、片岡 祐也¹⁾、伊藤 史朋¹⁾、佐藤 勝紀¹⁾、森 亨子¹⁾、佐々木 太一¹⁾、清水 可奈¹⁾、澁谷 和俊¹⁾、尾間 勇志¹⁾、藤本 美香²⁾、町田 博文²⁾

1) 特定医療法人暁純会 武内病院 臨床工学部、2) 同 内科

慢性腎臓病と便秘

伊藤 康文 先生 松波総合病院 第二消化器内科 部長

6-1 特発性クリオグロブリン血症性腎炎に対して Cryofiltration を施行した一例

○三浦 翔子(Dr)、西田 順二、横井 友和、安富 眞史

桑名市総合医療センター

6-2 鎖骨下動脈狭窄にインターベンションを行い、シャント血流が改善できた一例

○鈴木 康夫(Dr)、辻本 佳世、山脇 正裕、田中 文香、斎木 良介、小田 圭子、
春木 あゆみ、村田 智博、片山 鑑

三重大学医学部附属病院 腎臓内科

6-3 鎖骨下動脈狭窄症がシャント血流不全の原因となった1例

○西田 順二(Dr)¹⁾、三浦 翔子¹⁾、野田 真理子²⁾、横井 友和¹⁾、安富 眞史¹⁾

1) 地方独立行政法人 桑名市総合医療センター、2) 三重県立 一志病院

6-4 認知症周辺症状にて入院中に、重症大動脈弁狭窄症による慢性心不全で他界した透析患者の1例

○齋藤 友季子(Dr)¹⁾、富田 将司²⁾、向井 賢司¹⁾

1) 松阪厚生病院、2) 三重大学医学部附属病院 循環器内科

6-5 人工血管内シャント静脈側吻合部狭窄に対するステントグラフトの使用経験

○藤本 美香(Dr)、町田 博文、伊藤 尚子、清原 実千代、武内 操、武内 秀之

特定医療法人暁純会 武内病院

6-6 Blood Access としてカフ付きカテーテルを選択した15症例の検討

○中野 彰人(Dr)¹⁾、外山 裕貴¹⁾、中瀬 裕貴子¹⁾、服部 晶子¹⁾、小林 和磨¹⁾、古郡 和徳²⁾、
与那覇 靖³⁾、増田 智広¹⁾

1) 市立四日市病院 腎臓内科、2) JA 三重厚生連 三重北医療センター 菟野厚生病院、

3) 医療法人尚豊会 みたき総合病院

保存期・透析期における腎性貧血の診断と治療

脇野 修 先生 徳島大学大学院医歯薬学研究部 腎臓内科学分野 教授

特別講演

第1会場 (Zoom)

12:30～13:30

座長：松阪市民病院 泌尿器科 科長 米村 重則 先生

エンドオブライフ・ケア ー透析療法の見合わせと終了

東京大学大学院 人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター
上廣死生学・応用倫理講座 特任教授

会田 薫子 先生

共催セミナーのご案内

第1会場 (Zoom)

共催セミナー1 11:30～12:20

共催：テルモ株式会社

座長：加納 智美 先生(桑名市総合医療センター 血液浄化診療部 師長)

看護師による腎代替療法選択支援の実際

日本赤十字社医療センター 血液浄化センター

今井 早良 先生

共催セミナー3 14:50～15:40

共催：旭化成メディカル株式会社・
株式会社ジェイ・エム・エス

座長：尾間 勇志 先生(特定医療法人暁純会 武内病院 人工腎センター 透析部長)

近年の透析患者背景に即した テーラーメイドHDF療法の考察

桃仁会病院 臨床工学部 部長

人見 泰正 先生

第2会場 (Zoom)

共催セミナー2 11:30～12:20

共催：持田製薬株式会社

座長：片山 鑑 先生(三重大学医学部附属病院 血液浄化療法部 部長)

慢性腎臓病と便秘

松波総合病院 第二消化器内科 部長

伊藤 康文 先生

共催セミナー4 14:50～15:40

共催：田辺三菱製薬株式会社

座長：町田 博文 先生(特定医療法人暁純会 武内病院 人工腎センター 腎センター長)

保存期・透析期における腎性貧血の診断と治療

徳島大学大学院医歯薬学研究部 腎臓内科学分野 教授

脇野 修 先生

一般演題
抄 録

1-1 病棟における COVID-19陽性透析患者への対応

○伊藤 史朋(CE)¹⁾、塚原 蓮々¹⁾、佐藤 勝紀¹⁾、佐々木 太一¹⁾、清水 可奈¹⁾、尾間 勇志¹⁾、伊藤 尚子²⁾、藤本 美香²⁾、清原 実千代²⁾、町田 博文²⁾、武内 操²⁾、武内 秀之²⁾

1) 特定医療法人暁純会 武内病院 臨床工学部

2) 同 内科

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）が拡大し、各地でクラスターの報告がされている。当院でも2021年1月、A病棟においてクラスターが発生し、入院中の透析患者複数名がCOVID-19に罹患した。当院は感染症指定医療機関ではないため、透析患者がCOVID-19に感染した場合、感染症指定医療機関へ転院する予定だった。しかし、クラスターが発生し陽性透析患者が複数名となったため、保健所より転院は困難と判断され当院で透析を行わなければならなくなった。

保健所指導の下、A病棟ゾーニング施行。レッドゾーン内の1室に個人用透析装置2台を設置し、陽性患者専用透析室（以下、隔離透析室）とした。担当スタッフは臨床工学技士4名を専任し、入室の際はPPE（ガウン・マスク・手袋・キャップ・フェイスシールド）を着用、感染対策を講じながら隔離透析を実施した。隔離透析室専任スタッフは他業務もあり、陽性患者との接触機会を減らすため、入室は必要最低限（透析開始時、終了時、警報発生時、トラブル発生時）とした。透析中の管理は病棟看護師へ依頼し、警報の対処法・透析機器操作を簡易に指導した。またこの期間、隔離透析室内にてVAIVTの施行、コンソールの故障・修理対応も行った。

隔離透析室立ち上げから隔離透析室撤去までの約2か月間の経過を報告する。

1-2 COVID-19クラスター発生後の腎センターの対応と成果 ～濃厚接触者の隔離透析を経験して～

○柏木 加純(Ns)、別所 美玖、内藤 彩、奥村 美香、不破 泰子、佐々木 太一
特定医療法人暁純会 武内病院 看護部

【背景】2021年1月に当院A病棟においてCOVID-19院内クラスターが発生し、入院中の透析患者17名が濃厚接触者と判断された。当院感染症患者の隔離透析マニュアルに準じて、当腎センターで濃厚接触者全員の隔離透析を行うこととなった。対象患者はストレッチャー搬送が15名、車椅子搬送が2名と全員の介護度が高く、移乗や移送時の接触リスクが高い状況であった。また隔離透析翌日は、外来透析患者の通常治療が行われるため対象患者の帰室後にも感染に配慮した対応が必要であった。毎回の隔離透析後は検討会を実施し、振り返りと改善策が話し合わせ、次回に繋げた。隔離透析期間中にCOVID-19に罹患した患者も4名いたが、スタッフや外来透析患者への感染を防ぎ、院内クラスターの終息を迎えた。

【目的】当腎センターで実施した大規模なCOVID-19濃厚接触者の隔離透析で、どのような感染対策が有効であったかを明らかにする。

【方法】質的記述的研究で、隔離透析期間（2021年1月21日～2月13日）に実施した検討会の記録をコード化しカテゴリーに分類した。

【結果・考察】分析の結果いくつかのカテゴリーに分類された。COVID-19濃厚接触者に対する感染対策に有効であったと考えられる項目が抽出された。隔離透析後に検討会を行うことでスタッフの感染対策に対する意識づけができ、感染拡大防止に有効であったと考える。この結果を参考に当腎センターのCOVID-19濃厚接触者の感染対策に活かしたい。

1-3 透析室における 新型コロナウイルス感染対策の マニュアル作成 ～ゾーニングについて考える～

○戸塚 絵美 (Ns)、重岡 美奈子、吉川 とも子、
水谷 益美
医療法人社団主体会 主体会病院

【はじめに】 Covid-19の拡大に伴い、透析患者の感染または、濃厚接触者が今後も多く発生することが考えられる。

【目的】 当センターには個室が3室あるが、陰圧室ではなく、透析入室時は個室前を通らなければならない構造となっている。また、個室だけでは対応困難な人数になった場合、個室以外での対応も必要と考える。濃厚接触者の隔離対応への行動及び院内感染防止のためのマニュアルを作成する。

【研究方法】 当センターの感染対策マニュアル、ゾーニングに対し問題点を挙げ、カンファレンスを行い改善していく。

【結果】 問題点として、①個室に前室がない ②ゾーニングが曖昧 ③濃厚接触者対応マニュアルがない。があがり、当院 ICT の感染対策をもとにゾーニングの準備、透析中の管理方法及び患者、スタッフの入退室方法のマニュアルを作成。半透明のビニール袋を利用したカーテンを用いてゾーニングを視覚化。イエローゾーンを広げ、明確にすることで他へ曝露することなく PPE の着脱がし易くなった。

【考察】 ビニールのカーテンにより個室からフロアへの空気の直接の流出を防ぎ、感染曝露が減少したと考えられる。また行動をマニュアル化することで感染予防に対する不安が減少、スタッフ間の対応の統一化ができ、短時間で行動できるようになった。

【結語】 感染対策は迅速に行われなくてはならない。そのため全スタッフがマニュアルに沿って準備し施行できることが重要である。

1-4 コロナ禍における当院の感染対策

○九折 ゆかり (Ns)、村田 幸恵、山際 佳代、
井口 史美、小泉 奈保美、後藤 浩也
特定医療法人同心会 遠山病院

【はじめに】 透析患者の COVID-19の感染が報告され日本透析医会ではいち早く2020年2月に透析施設での対応についての提言が示され全国各施設で感染対策がおこなわれた。当院では、透析内でも感染チームを発足し、スタッフへの勉強会、感染対策の周知、患者への感染対策の啓発活動など患者共に一丸となった感染対策をおこなったので報告する。

【感染対策の実際】

- 透析患者170名に対して家族を含むディサービス等の利用状況の把握、県外往来状況を確認し定期的 COVID-19抗原検査
- 感染チームを発足、定期的なミーティングをおこなないスタッフ・患者への感染対策の周知
- 患者に対してマスク着用、手指消毒の周知徹底、うがいの奨励、COVID-19の症状(発熱、咳嗽、咽頭痛など)がある場合の対応等啓発活動
- マニュアルの作成(透析前問診時、透析中の対応等、COVID-19発生時)、3密を避けるロビーや更衣室の配置変更、清掃の徹底、患者ごとのシーツ交換、CO₂連続モニタリングによる換気、感染発生時を想定した PPE 装着訓練、ゾーニングをおこなった

【結語】

- 患者に対して感染予防の理解を図ることで感染予防意識の向上に繋がっている
- 感染チームを発足しスタッフ、患者共に一丸となった感染対策ができた

協賛企業名

旭化成メディカル株式会社	中外製薬株式会社
アステラス製薬株式会社	テルモ株式会社
アストラゼネカ株式会社	東レ・メディカル株式会社
アムテック株式会社	鳥居薬品株式会社
キッセイ薬品工業株式会社	日機装株式会社
協和キリン株式会社	ニプロ株式会社
サノフィ株式会社	バイエル薬品株式会社
株式会社三和化学研究所	扶桑薬品工業株式会社
株式会社ジェイ・エム・エス	メデイキット株式会社
田辺三菱製薬株式会社	持田製薬株式会社

(五十音順)

本学術集会は、上記協賛によって遂行することができました。
この場を借りて御礼申し上げます。

第58回三重県透析研究会学術集会 プログラム

当番幹事：米村 重則 松阪市民病院 泌尿器科科長

事務局：三重県透析研究会
三重大学医学部附属病院 血液浄化療法部内
〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174
TEL：059-231-5403 FAX：059-231-5569
E-mail：renal@clin.medic.mie-u.ac.jp

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>

